

(様式2)

社団法人心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	山田 富美雄 (やまだ ふみお)	所属	大阪人間科学大学
研究集会等名称	まばたき研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 24名 (うち認定心理士 4名) 非会員 6名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>(1) 日本心理学会においてワークショップを開催しました。 (2) 年1回の定例研究集会を下記のとおり行いました。 日時：平成22年3月27日(土) 13:00より3月28日(日) 12:30まで 場所：島根県立大学短期大学部 出雲キャンパス (幹事：橋本由里、所属：島根県立大学) 内容：一般発表および講演会</p> <p>研究集会での口頭発表では、認知過程や情報処理、虚偽、慣れ、対人距離、視線と瞬目の関係など多岐にわたり、瞬目の測度としても、タイミング、時間分布、頻度、反射量を用いた様々な研究が報告されました。</p> <p>また、講演会は島根県立大学との共同開催でアカデミックサロンと称し、島根県立大学名誉教授の飯塚雄一先生を講師に迎えました。演題は「非言語的コミュニケーションのマルチ・チャンネル的研究の推進を目指して」で、講演に続いての質疑応答を通して、社会心理学的な立場から瞬目研究の意義や、コミュニケーションツールとしての瞬目の可能性が議論されました。</p> <p>なお、研究会に続く総会において、会計報告とまばたき研究会の今後の進め方についての話し合いが行われました。次回の定例研究集会は、来年度同時期(平成23年3月末の2日間)に、北陸地方にて開催すること(幹事：立平起子、仁愛大学)を決定しました。それに加え、日本心理学会ワークショップでのまばたき研究の研究集会、および科研費への申請を引き続き行うことについて、参加者全体の賛同を得ました。</p>		